

# さようなら ブライアン先生 「日本のみなさんのやさしい対応に感謝します」

平成13年7月から外国語指導助手として上郡町に在住していたブライアン先生が、3年間の勤務期間を終えられ、7月27日をもって出身地のアメリカ・カリフォルニア州へ帰国されました。

先生の帰国を前にした7月13日(火)、役場大会議室で、町長、議長、教育委員会委員、小・中学校長などが出席し、送別会が行われました。中学校の生徒だけでなく、町内の園児や小学校の児童などとも交流を深め、親しまれていたブライアン先生は、送別会の後、次のコメントを町民の皆さんに残してくださいました。



3年間の思い出を胸に帰国されたブライアン先生

I had a good time in Kamigori.

You have a very beautiful town.

Thank you for all of your kindness.

I enjoyed sharing these three years with you.

Brian Campbell

上郡では素晴らしい生活ができました。

本当に美しい町ですね。

皆さんのご親切に感謝しています。

この3年間、皆さんと一緒に楽しく過ごすことができました。

ブライアン キャンベル

# 発掘された7世紀後半の寺院跡 「與井廃寺」の調査成果を発表

上郡町教育委員会は7月26日(月)、上郡町與井字寺前に7世紀後半(白鳳期)の寺院跡が発掘されたと調査成果を発表し、31日(土)に現地説明会を開催しました。

調査された場所は、昭和初期から赤穂郡唯一の古代寺院「與井廃寺」の存在が指摘されていた土地で、今回、開発にともなって約50㎡の発掘が5月下旬から行われていました。この調査によって出土した大量の瓦や土器から、寺院が7世紀後半に創建されたものであることや、古代の地盤改良工事の「掘り込み地業」の痕跡から「與井廃寺」の塔跡の具体的な造営位置が初めて明らかになりました。

また、塔跡の周囲が谷地形になっており、寺院の造営の際に大規模に整地されていることがわかりました。

與井廃寺の塔心礎(塔の中心の柱を支える石)は、昭和13年9月27日に運び出されており、そのときの写真が残されています。現在、その石は行方不明で、「どなたか與井廃寺の塔心礎の行き先をご存じないですか?」と、町教育委員会文化財係が呼びかけています。



【右上】塔心礎の抜き取り状況を今に伝える当時の写真(昭和13年9月27日撮影)

【右下】雨の中行われた現地説明会

【左】塔があったとされる場所の全景。與井廃寺跡の塔基壇(建物の基礎)からは「掘り込み地業」を施したことが確認できる



# はじめまして ミッシェル・ロイスです 「上郡町の皆さん こんにちは」

外国語指導助手のブライアン先生の後任として、アメリカからミッシェル・ロイス先生が上郡町にられ、8月5日(木)、役場大会議室において歓迎会が開かれました。

初めて上郡町を訪れ、今後滞在されるミッシェル先生からのあいさつを紹介します。

I am Mechelle Lois. I am from Pittsburgh, Pennsylvania, in America. I have studied a little Japanese. I am very happy to be in Kamigori and I am happy to teach English.

Mechelle Lois

私はミッシェル・ロイスです。アメリカのペンシルバニア州ピッツバーグからやってきました。私は日本語を少し勉強したことがあります。上郡に居ること、そして英語を教えられることをとても喜んでます。

ミッシェル ロイス



# ダム湖に響くまつりのにぎわい

## 青空の下、盛大に安室ダムまつり



おまつり会場では楽しいゲームが目白押し

第12回安室ダムまつりが、夏休み目の7月19日(祝・海の日)、安室ダム周辺を会場として開催されました。

まつりは「森と湖に親しむ絵画コンクール」で入賞した子どもたちへの表彰式からスタート。円心太鼓や傘踊り、銭太鼓、コーラスの披露などのほか、近隣の市からもカラオケの出演者を招き、会場では終始、音楽と歌声が緑の山々にこだましていました。また、バザーコーナーでは地元自治会などが趣向を凝らした模擬店や子ども向けのゲームを催され、冷たいものを片手にまつりを楽しむ親子連れの姿が見られました。

一方、安室ダム湖では、湖上のカヌー教室やモーターボートの湖面巡視などが行われ、年に1度のカヌー体験を楽しみに訪れた子どもたちのはしゃぐ声が響いていました。



地元コーラスサークルの出演



湖上でのんびり カヌー教室

# 青年海外協力隊としてフィリピンへ 戎原進一さん(八保乙)が陸上スポーツ振興のために

7月8日(木)、開発途上国への派遣ボランティア・青年海外協力隊としてフィリピンに向う戎原進一さん(八保乙・25歳)が、安則町長を表敬訪問しました。

中学時代から陸上競技に携わってきた戎原さんは、その技術と知識を生かし、陸上専門の先生がいないフィリピンのイザペラ州にある国立高校で、2年間、学生へのスポーツ指導にあたられます。

安則町長から激励を受けた戎原さんは、「限られた期間ですが、陸上競技の魅力伝えていきたい。また、フィリピンの住民と良い関係を築き、少しでも多くのことを学びたい。」と話されました。



「今後、フィリピンの陸上競技に注目を。」と戎原さん(町長室にて)